

一年ぶりの福島への旅

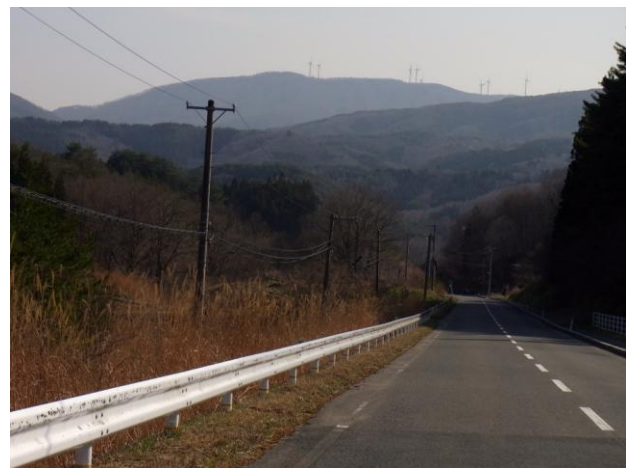
2013 年 4 月 2 日～4 日

狛江の放射能を測る会 二階堂 まり

ちょうど一年前に 狛江の放射能を測る会のメンバーと 4 人で福島に行った。あまりに美しい里山が、目に見えない放射能によって汚染され、死の地と化している姿に言葉がなかった。一年たつてどのようなになっているのだろう？ 巷では、政治では、あたかも「収束」したかのように扱われているのを見ることもしばしばだがそんなことがあろうはずがない。環境の、そして住む人たちの現実、実際はどうなのだろう？ ハード面・ソフト面でこの一年何がどう変わりどう変わらなかったのだろう？ 今回もメンバーの入れ替わりはあれどやはり 4 人のメンバーで測定器 3 台を持って、去年同様いわき市からスタートした。二泊の宿舎も変わらずいわき湯本と飯坂温泉だ。

<いわき市の特殊な状況>

NPO ザ・ピープルの事務所は、以前のプレハブから小名浜のタウンモールリスポの中の一室に移っていた。ここはショッピングセンターで、その二階には去年私たちが見せていただいた小名浜地区交流サロンがあるのでとても便利になったわけだ。サロンでは被災者の方たちが集って喋ったり本を読んだり子どもを遊ばせたりのほか、色々な講習会（ケーキ作り・編み物・折り紙・オカリナなど）や絵本読み聞かせ・就職相談会なども行われる。また、毎週火曜日は各市町村単位の交流サロンになり、我々が行った時は相双地区の方たちがテーブルを囲んでいた。病院から送迎もしてもらえるそうだ。保健士が来て健康相談もあるとのことだった。三月のカレンダーを見ると週ごとに、富岡町、双葉町・大熊町、広野町・川内村、南相馬・浪江町・葛尾村、となっている。仮設住宅が並ぶ所では集会所があるところもあるが、拠点が中通りにあるような避難元町村にはそういった場所はない。そうした避難者にもサロンを使えるようにした。同じ町村の人たちでしか話せないこともあるのだ。いわんや被災して避難してきた方たちといわき市民との間にできた断絶……。これがこのいわき市特有の一番厄介で辛い問題のようだ。去年もそういうお話（市民と市民以外はもちろん、いわき市の中でも被害状況が全く違うので市民の被災感覚はバラバラだと聞いた）を伺ったが、一年たつてその断絶はさらに大きくなり深刻な問題を生み出しているという。



国道 399 号線を葛尾村から田村市に入る掛札峠を南下。阿武隈高地南部を望む。

<コミュニティの断絶>

年末から年始にかけて公共の建物 4 か所に「被災者帰れ」という落書きがされた。また仮設住宅に止めてあった高級そうな車のボンネットに傷がつけられたりガラスが割られたりパンクさせられたりという破壊行為が起こった。それまで噂はあったが、「無策」のつけで、警察が動いて表沙

汰になる「事件」となってしまった。

去年と同じ「金をもらってパチンコをしている」「働かずにもらった金で飲んでる」のような、事情を理解せずに非難する風潮に加えて、いわき市では被害が一部だけで（死亡は 450 人）小名浜港には大金が入っていることなどから「この機にバブルを！」の空気があり復興バブルが起きている。そして弱者は切り捨てられる。

避難してきている方たちの間でも**支援格差**がある。特に、仮設と借り上げでは大きい。仮設の場合はまとまっていて「姿」が見えるので支援が来やすく集中する。借り上げの場合はポツリポツリなので支援品も届きにくい。仮設に借り上げの方が来て、毛布が余っていたので「余っているなら欲しいな」と言ったところ「これは仮設用だから・・・」と断られたそう。一事が万事で差別意識が溜まってくる。また借り上げの場合はみんなで集まる場所もないので「サロン」は貴重な場所だ。

被災者が迫られる色々な決断にも**さまざまな考え方**がある。ザ・ピープルはサロンの運営だけでなく他の支援団体と一緒に「3.11 被災者を支援するいわき連絡協議会（みんなが復興の主角：略してみんぷく）」を立ち上げ、コミュニティのつながりを深める事業に参加している。そして、仮設・借り上げ・地区の自治会に働きかけてつながって行こうとの動きが始まったが難しいことが多い。民間アパートの借り上げにいと周りの人に気兼ねしたり、「避難者と見られたくない、いじめられる」から表札をかけない人もいる。また、お金が続くまではぶら下がってしようとする人もいる。帰還ができることになっても「帰る」「帰らない」で家族の中でも断絶が生まれる。広野町は小学校もオープンしたが、町は子どもが住める状態ではないので中央台(仮設団地)からバスで通学する。そこには転校したいわき市の学校に残る子どももいる。そこで子どもの中でもイザコザが起こる。広野に通う子どもにしても、やっと新しい友だちが出来たのにまた別れさせられたわけだ・・・。

「いわき市の人は冷たい」から気候はよくても行かないと会津若松に避難している人が言う。会津は過疎化が激しいこともあり避難者を大変歓迎している。いわきの人たちは、原発立地町のすぐ隣にいたので、いかにそこが良い思いをしてきたかを見てきた。そのためもあり、会津とは違う感情もある。

女性はサロンなどに集まりやすいが、男性は溜まったストレスを DV や酒に向けがちである。警官が仮設を回ると、男性がはけ口として喰ってかかることも多いそうだ。

被災者支援のために個人情報欲しいのに福島は全く出さなかった（岩手はすぐに出したが福島は「支援の車が来ると被災者だとばれるから困る」という人もいたので・・・）と）がやっと25年度から「地方振興局」が区域分けして4つのNPOに情報を出した。そして、ケアをする委託事業をやれることになった。これで借り上げの人たちの居所などの情報がわかるようになった。遅かったが画期的なことだと。



タウンモール・リスボ内の小名浜交流サロンにて。右から2人目が NPO ザ・ピープルの吉田恵美子理事長。バックは埼玉県小学生から、桜の花びらをかたどったお手紙。

<有機コットン栽培>

一年前に手探りで始まった有機コットン栽培、始めは塩害に強いということで目をつけたが、ザ・ピープルは元々1990 年スタート時から、布のリサイクルつまり布を捨てない、布の墓場をや

っていたのだから、この際、ゆりかごから墓場まで面倒を見ようと思っている。栽培地はベクレルチェックをしているがコットンは放射能の移行係数が 0.0086 と非常に低い作物である。収穫物に放射能が検出されずにほっとしたそう。昨年 10 月から収穫したコットンで人形を作って販売している。とても可愛い。顔以外はコットンでできていて、買った人は時期が来たらそこから種を取り出して家で撒いて育て、収穫したらいわき市に送って一緒に製品を作る中に入れてもらえる。コットンは綿と種を分ける工程までいわきで行い、広島に送って糸にしてもらい、岡山で布にしてもらって戻ってくる。それを福島で縫製してTシャツにして 2 月のいわきサンシャインマラソンで着て走ってもらう……。それがとりあえずの夢だそう。家庭菜園でもやっていけるし、仮設でバケツを使って作っている人もいる。檜葉町で有機農法の米（白鳥を呼び込んで）をやっていた方が、もう檜葉で「食べ物」は作れないが「農業」はやりたい、と将来は檜葉でやることを考えている。すでに 4 月から広野町でもやることになっているし、南相馬にも広がりそう。だいぶ前から帰還してよいことになっている広野町の農家で、ゼオライト除染が行われている田んぼを見ながら、「口に入るものは作っても売れない、コットンで『作物』が育つ『農業』を継承しよう」と言う方が出てきたそう。いわき市では仮設の近く三か所に畑を作り作業に来られるようにしている。仕事をしたら支援金をカットされるので自宅にじっと籠っていた人たちが動き出すきっかけになればとのことだ。



コットンベイベ。購入者が人形につ
いている種を植えて育て、採れた
綿花を福島に送る。

<ボランティア>

ボランティアセンターの仕事は 仮設から復興住宅への移動までだ。それまでに、そこまでのことをきちっと次へと伝え、教訓にしてもらわねばならないとセンター長の吉田さんは言う。この 1 年間で約 1500 人のコットンボランティアが来てくれた。段々に世間の関心が薄れ、関西から来た若者は「新聞にも最近は出ないし、もう(復興のボランティアは)終わったんでしょ？」という言い方をしていたそう。高速道路の料金が 4 月から無料でなくなり負担が大きくなったし、首都圏での関心も薄れてきた。今後はいわきの人を中心にやって行くことになる。どうしていくのかを考えるとときが来ている。やること、やれること、やりたいことを決めていかなければならないと。

<水俣との交流>

被災二ヶ月後に都内で出会った地元学の専門家から「フクシマは水俣に学ぶべき」と言われ、同じような辛い体験をし、同じような問題：コミュニティと環境問題 を抱え、それを乗り越え今では国の「環境モデル都市」になっている水俣と交流しようと、24 年 8 月に 5 泊 6 日の「水俣研修旅行」を実施。将来を担う若者 13 名（湯本第二中学校 3 年生と卒業生。被災避難者も含む）が 5 泊 6 日で熊本を訪問した。湯本二中の澤井校長は学校が避難所になった時に、避難者たちを教室に住まわせて生徒たちと接点が出来るようにした。他の学校では体育館に避難者がいたので生徒たちはその様子を見なかった。二中では、生徒たちが食事の提供など触れ合うことが出来、「おばあちゃん誕生日おめでとう！」などと言葉を交わせた。最初まず、その澤井校長に参加希望者の声かけを頼み募集したのだが、教育委員会を通してないからと没にされたため、二中の生徒と卒業生の高校生からの募集となった。その澤井校長は、4 月に別の中学校に異動になった。研修旅行の報告書もいただいてきて読んだが、澤井校長が「彼らのレポートや報告はまだまだ未熟です。しかし必ずいわきの未来を担う人間に成長すると思っています」と言っているように、素晴らしい体験&体験談で希望を感じる。

<たらちね>

去年も訪れた「いわき放射能市民測定室 たらちね」を訪問。ホールボディカウンターと食品・土・水の測定に加えて、この3月からは甲状腺の検査も行えるようになっている。たらちねは又「福島の子ども保養プロジェクト in 久米島」の事務局にもなっている。このプロジェクトでは、久米島の「球美（くみ）の里」に2012年7月5日から毎月約50人の子どもと保護者を受け入れている。映像を見せてもらったが2週間沖縄の美しい海でのびのびと過ごす親子共々、心身ともにリフレッシュする。福島市の保育園で偏平足の子どもが3倍以上に増えていると報道されたばかりである。子どもたちの輝く笑顔、弾けるような動きが印象的であり、普段それが出来ないことを思うと心が痛んだ。久米島は、大田昌秀元沖縄県知事の出身地で彼が何とかしたいと積極的にかかわった。島全体で支援してくれており、掃除のボランティアなども市役所が派遣してくれるそうだ。

子どもたちは今までは久米島の病院で院長の好意により甲状腺の検査をしてもらっていたが、院長が変わったためできなくなり、たらちねで測定器を購入することになった。前々から甲状腺の検査は何とかしたいと考えていた。購入費用は数千万円で、DAYS JAPAN、カタログハウス、「未来の福島子ども基金」「日本キリスト教協議会（NCC）」などからの寄付と、NCCやJETROが受け口になっての海外からの用途指定の寄付（ドイツから多かった）を受けている。ドイツのNCCはわがことのように心配してくれている。DAYS JAPANはホールボディカウンターも寄付しているし、代表の広河隆一さんはNPO 沖縄・球美の里の理事長でもある。測定器は、日立エビアスという大きいものと、GEのlogicという持ち運びできるものの2台。測定のためには甲状腺または内分泌内科・外科の専門家が必要で、測りに来てくれるボランティアの専門医を募った。人道支援なので交通費・宿泊費などの実費のみでデータの持ち出しは無し（受診者にはプリントして渡し、データはたらちねで保管）。今のところ、北海道の癌センターから1人、島根県から2人（原発があるので協力的）、東京出身の福島在住の医師1人、事故直後に福島に入った独協大のチームから



甲状腺検査器(日立エビアス)。ボランティアの専門医により、一日80人ほどの検査を行う。結果はその場で本人に通知。データはたらちねで保管。



食材検査器の説明をする、たらちね代表の鈴木薫さん（奥）。ペットボトルの水で周囲からの放射線の影響を避ける。



ホールボディカウンターで検査を受ける二階堂。腰かけタイプで数分で終わる。東京にいて被ばくしているはずはないと思いながらも結果が出るまで緊張した。

1人で計5人。遠いところは交通費・宿代がかかるので日帰りできる東京あたりから来てくれるといいのだが、各地の病院に電話した結果、東京は大変反応が「薄い」そうで、事務レベルで門前払いになることも多く、「え？何の話？」という感じだったそうだ。ボランティアの専門医は3月半ばに沖縄に行く子どもたち74人を検査し、4月半ばには数日間来て測る予定。来た医師は朝9～13時まで全く休まずに80人くらいを診てくれるという。

食品検査→保養→甲状腺検査 とやってきているが、世間では「経済の復興」に向けた力が加速していて、子どもたちの健康が軽んじられている。また、市民の間に疲れが出てきていると心配している。役所の中で真面目な人たちは問題意識を抱えていて、一個人としてやれることはやっているが、基本は命令に従って動くしかない。でも思いは強いと。原発対策プロジェクトの最初のリーダーはノイローゼになり辞めた。他にも住民との間に立たされ数人がノイローゼになっている。保健所は「空間線量が‘選んだところで’測られている」ことを知っているし危機感を持っている。一般の人は知らない。自民党の政治家がいっぱい来て「トークセッション」をやって行くがどれも経済復興のことだけだ・・・。

ホールボディカウンターで私も測定してくださった。ちょっとドキドキした。私でもそうなのだから、被災地の子どもたち、そしてその家族たちは測定の時どんな気持ちだろうと考えてしまった。

<浜通り医療生協>

去年同様、この理事長で原発問題住民運動全国連絡センター筆頭代表委員の伊東達也氏に話を聞いた。

いわきは除染対象地域なのに、国もいわき市も中間貯蔵施設がないからと除染に手をつけない。住宅にネズミが入り、腐り、住めなくなる。行政は「大丈夫」という材料ばかり探し住民の心配に寄り添わない。

原発の被害はあまりにも深刻だ。「震災関連死」(大部分は原発事故に起因している)は2013年3月31日現在1371人で、直接死1599人に迫っている。行方不明者を探すことが出来ず、死体が数カ月も置き去りにされた。事故から2年近くたってから、浪江町の333名が裁判に訴えている。「まだ金が欲しいのか」という意見もあるが、金の問題ではない。突然の原発事故で着の身着のまま避難したため、津波で流された家族を置き去りにしてきた。そこで翌日探しに行こうとすると「通行止め」。生きている確証があるのに救援に行けなかった。自衛隊などに頼んだが行ってくれなかった。(2011年)3月末になって警察から死体置き場に来いとの連絡。死亡推定日は3月22日で衰弱死・・・。11日も生きていたかと思うと、可哀想でたまらない。東電と政府は謝罪するだけでなく、補償する義務があると思うと語られた。

避難地域の新入高校生は250人→30人に。来年度で廃校になるだろう。広野町は帰還できることになってから1年かかっても5000人中500人しか戻っていない。子どもや若者はいない。多くの人が苦しみと不安、ストレスの中で暮らさざるを得ない。いわき市での落書き・自動車破損



浜通り医療生協の事務所で。右から2人目が伊東達也理事長。原発事故の惨状を聴く。「日本史上、最大にして最悪の公害」と指摘した。

の話から、被災者が来たことで医者待ち時間が30分→1時間になったことにも不満を感じてしまうという話もされた。いわき市だって雨が降ればアウトだったのに（飯舘は雪が降ってしまった）。他人事と考えるなど。これは日本中の人たちに言えることだ。福島県の全産業が損害を受けており、ここの医療生協は2011年の減収だけでも3700万円、社会福祉法人の4施設を放棄したので最低でも1億円の損害。公認会計士が計算して出している行政・東電は全く反応しない。個人の損害に関しては言うまでもない。

伊東氏は原告団長として「元の生活をかせせ・原発事故被害いわき訴訟」の裁判を提訴（原告822人）している。裁判は損害賠償だけではなく、除染をはじめとして生涯にわたって健康を維持する施策、万一の時には治療に専念できる施策、学校教育・社会教育などの啓もうにより、いわれなき社会的差別を克服することなどの政策形成を求めている。昨年12月に提訴した30キロ圏内の「ふるさとを返せ・福島原発避難者訴訟」とも手をとりあって進めるそうだ。この訴訟の原告に次に登場する早川篤雄氏がいる。



「エネルギー福祉都市 自然と科学が創造する豊かな郷土 ならは」の看板が今も掛る檜葉役場

<檜葉町から富岡町へ>

檜葉町の寶鏡寺（ほうきょうじ）の30代目の住職で今はいわき市に避難しておられる早川篤雄さんの案内で檜葉町と3月25日に再編された富岡町の「避難指示解除準備区域」と「居住制限区域」に初めて足を踏み入れる。人気（ひとけ）のない家々・店舗と裏腹に元気に稼働している工場が見える。町長が所有している採石所をコンクリート工場にして儲かっているようだ。「潰れずウハウハですよ」と。原発の立地4町はどれも首長は土建関係だと。事故の時は6号橋脚の補修が終わったところだったので自衛隊や消防車が入れた。それで被害があれで済んだ。運がよかった。交通難所の大飯原発のことを思う・・・。更に、冬で風が北西風だったから海に流れて行きあれで済んだ。30キロ圏なんかでは済まなかっただろう。奇跡的・・・と。JCOの事故の時に、これを教訓にしない



富岡町の海岸に近い仏浜地区の津波と原発事故被災地。2年経ってもこの状態で、痛々しい。



富岡駅と駅前にあった中国料理桃源。電柱に掛っている看板は「子どもたちの未来のために 東北電力」



富岡町夜(よ)の森の桜並木。除染され桜の根元で 4.5 μ Sv/h。両脇の排水口脇「は振り切れた(10 μ Sv/h 以上)

左は桜並木通りにある洋菓子屋さん。ガラス戸にはホワイトデーのポスター。右は在りし日の玄関前の写真。今はいわき市中央台で開いているとのこと。

いと次はもっと大変なことになると言われたのに……。ハインリッヒの法則だ（1つの重大事故の背景には29の軽微な事故と300のヒヤリとする事故がある）。檜葉町のコミュニティセンター&役場に行くと、「エネルギー福祉都市」「自然と科学が創造する町」と書いた大きな看板が道路に向かってそびえ立っている。恥ずかしくてすぐに取り外さないものなのだろうか？！富岡町の福島第二原発エネルギー館は今も「原発は安全です」とPRしているのだろう。

海がすぐそこに見える富岡駅の駅舎は津波の威力を思わせ、荒れ放題の姿が悲しく、倒れた電柱がトイレの建物の屋根に寄りかかった格好になっている。トイレだけが壊れずに佇んでいる姿がなにか滑稽に見えた。行く途中の仏浜地区の民家や商店は2年たった今も黄色のビニールテープで囲われたままで放置されていた。

富岡町の「夜(よ)の森の桜並木」はまだ少し色づいたかなというくらいだが咲いたらさぞ美しいだろうと想像された。その桜並木道にぴったりの可愛いケーキ屋さんがあった。大きな窓や壁にきれいなポスターが貼ってある。「ホワイトデー」と書かれて。そうか、その3日前に去らねばならなかったのだ。中を覗くと可愛らしい包装の箱やお菓子が……。

幼稚園の広い園庭には草が生え、遊具がポツンと佇んでいる。園児たちはノートもクレヨンもそのままに逃げたままだ。チェルノブイリ事故後に現地にいらした早川さんと私たちの仲間の増田さんは「プリピャチの幼稚園でノートが開かれたままになっているのを見て強くショックを受けたがそれと同じだ……」と。

檜葉町では農地は荒れ放題のところとゼオライトを撒いて耕したところがある。ただ混ぜ返したただけだからな



富岡町の幼稚園



富岡ではそこらじゅうで見られた荒れた田んぼ。放置するとトラクターで入れなくなる。



田んぼはゼオライトを入れて「除染」。汚染物を袋詰めにして、3年契約の仮置き場として野積みされる。

んの除染にもなっていないとのことだった。ただ、放っておくとセイタカアワダチソウが伸び放題になり柳や萱が入り、普通のトラクターでは耕せなくなるのでその点ではよいと。早川さんは事故前は自給自足をしておられ、米・野菜・ヤギ・炭焼きまでしていた。田畑の一部は三年契約で除染のごみ置き場に貸している。そうしなければ除染が進まないのだから。住宅と周辺から出た汚染されたゴミや土壌を容れた例の黒い袋（フレコンバッグ）がぎっしり並んでいる。檜葉町は阿武隈高地を背に井出川・木戸川という二本の清流が流れていて羨ましがられていたという。本当に美しい長閑な心が洗われるような景色だ。何も知らなければ。町民が立ち退いてからしばらくたった4月20日になってやっと立入禁止になったため、その間にドロボーが入らなかった家はないとのこと。寶鏡寺も賽銭箱(箱ごと)と錦鯉7匹(10匹中、1mのものも!)が持って行かれた。仏像7体は盗られるといけなないので仮設の押し入れに疎開している。ネズミが大量発生して糞尿で布団など全部だめになったそうで、道路脇のゴミ集積所にはそういったものが積まれていた。

寶鏡寺は1395年開山で、集落にある約100戸の内、2戸を除いてすべてが檀家である。ちょうど檀家の方たちを運ぶバスとすれ違った。下の方から見上げるとお寺の背景には立派な桜の木がたくさんあり、見事な景色になりみんなで楽しんだそうだ。今はそれを美しいと眺めて楽しむ人もいない。除染をするというので、スギ花粉が飛び、枯れ葉も落ちてからやれと言ったら、年度内予算でやるのだからダメだと言われたそうだ。年度の都合で除染を決めるのか？本殿には位牌と骨箱が安置されていた。20人が亡くなり6体が納骨できていない。

相双8町村と飯館・南相馬には198の行政区があり大小63の寺・132の神主のいる神社(法人登録されている)があった。この辺りは北部南部に比べて地形的に産業が起こせない土地で、戦前の農地解放前は二軒の大地主が土地を持ち、あとはいわゆる「水飲み百姓」ばかりでせいぜい2〜3反を耕す本当に貧しい暮らしの土地だった。そこに付け込んで原発が誘致された。イチエフ(第一原発)の5、6号機を作ったお礼に30億円が支払われた。

地面の下には双葉断層が90km走っている。露頭が見える18キロは東電も認めている。そばにも断層が多数走っている。連動するだろうから計算しろといってもやらない。津波に関しては散々追求してきた。東電は、第二原発は水密性があるから大丈夫だと答えていた。東電とは1ヶ月か1カ月半に一度協議してきたのだが……。まだまだ余震の恐れもあり、再臨界同様に予断は許さないし他人事ではないことを県外の人たちも知るべきだと話された。

<電源三法>

檜葉町総合運動場を見た。人口8,000人の町に電源三法で作られた素晴らしい施設!!サッカー場・野球場・陸上競技場・何面ものテニスコート・・・すべて夜間の照明もある。夜に来ると照明が煌煌とついている中で若者が数名で使っていたということだ。「1960年ころから‘明るい’話題となって半世紀、1971年に1号機が稼働してから40年、『東電城下町』は地域の消滅をもって終わった。そんなことは冷静に考えれば始めからわかっていた」と。立地4町は壊滅した、若者は戻らない。しかし、4基の廃炉



寶鏡寺本堂で。右から2人目が早川篤雄氏。以前から原発反対の運動をされてきただけに、悔しさがにじむ。『東電城下町』は地域の消滅を持って終わった。」

に加えて、これから6基を廃炉にしていかなければならないのだから、仕事は100年あるだろう・・・。

まさに原発立地の象徴であるJビレッジは事故のあと大企業・復興バブルの基地となっている。一年前はここにバリケードがあったが今回は早川さんの車でぐりりと中を巡った。緊張感が高く、窓を開けて写真を撮っていたら、おばさんが飛んできて怒りの形相で「あんたたち何やってるんだ！！！！」と怒鳴られた・・・。

<399号線を測る>

線量からいえば半減期2年のセシウム134が70%、半減期30年のセシウム137が30%だからほとんどのところは線量が減っていると檜葉町では言われたが、399号線を測って行くと去年と比べてそれ相応に減っているところはあまりなく、ほとんどがほぼ同じか高くなっているところさえあった。除染をしたところでもあまり効果は見られない。山の木を切ってしまうなければ風や雨でセシウムなど放射性物質が流れてきて除染の効果は疑わしいものだ。

飯坂町から飯館に入り去年と同じルートを測定しながら行くと、警察の車やカンカンと鐘を鳴らす消防車が走っている。飯館村赤石沢遺跡入口と看板のかかっている付近の民家では縁側におじいさんが1人ポツンと腰をかけていた。測定をしていると、首輪をつけた犬が「遊んで！」と寄ってきた。

更に進んでいくとバリケードにぶつかり進めなくなった。去年は入れたあの線量計が車内で振り切れたところ、遥か向こうの小さな鳥居のこちらに広がる田んぼのあのあまりに美しい景色のところ、そこにはもう入れない。でも何故？なぜ去年は入れたの？1年前に線量計が振り切れた話をしたとき、息子に「どうしてそんなところに入れるの？」と聞かれたのを思い出す。我々は一回通っただけだが地元の人は何度も入っていたのではないだろうか。本当はあの時から立ち入り禁止にすべきだったのではないのか？私たちの車についてきたらしい名古屋県警の車に聞いてもどこまでが立ち入り禁止なのかわからない。しかたなく対策本部に電話して聞くと浪江町は全域ダメなようだ。

やむを得ず、川俣町・二本松市、田村町→葛尾村と迂回して浪江町に入る反対側のバリケードまで行くことにする。葛尾村役場で対策本部のトイレを借りて、そこにいたおにいちちゃんと話す。公共施設は先行除染してあるけどそれ以外は今月半ばから宅地を中心に除染開始だと。「田畑は上を剥がすと言っているけど、持っていくところもないし、剥がして同じ



福島市飯坂温泉の大鳥城跡で。モニタリングポストは 0.836μ Sv/h。我々の測定は 0.955μ Sv/h だった。



霊山町のりんご園。115号線と交差する手前北側の脇道。



伊達市月舘。月見舘森林公園の案内板。向こうに見える橋が399号線。0.72μ Sv/hで、去年の0.585μ Sv/hより少し高かった



月見舘森林公園近くの除染作業。伊達市では農家の除染作業を含めて、良く見かけた。このあたりで 0.83μ Sv/h。



飯舘村入口。このあたりで $1.15\mu\text{ Sv/h}$ 。全員、マスクを着用する。



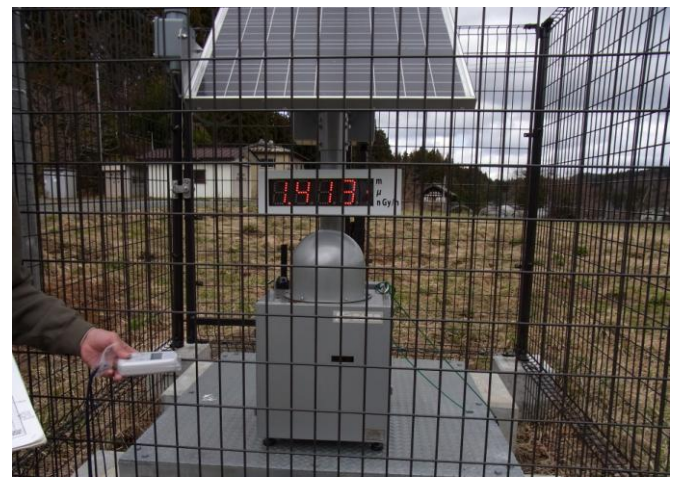
区内の若者が中心になって住み心地の良い「ひもろぎの里」をつくろうと、の碑を建立。 $1.95\mu\text{ Sv/h}$ 。

だけ土を入れればいってわけじゃない。密度の問題もあるし大変ですよ」と。長年培ってきた土・・・。

バリケードまで行き、引き返してくると警戒パトロールの車に乗った村のおじちゃんが我々の話（去年は入れた）を聞いて「今頃入るなと言ったってな、始めから入れるなって！」と。そのバリケードのことも途中にはっきり表示されていないので、我々が戻ってくるときにすれ違った車が「頭に来た！」とでも言うように猛スピードで引き返してきた。

葛尾村と田村市の境になる掛札峠で除染作業は「3月29日まで」との立て札があったがその線量は $1.3\mu\text{ Sv/h}$ で去年とほぼ同じだった。

田村市の都路街道交差点近くの農家で土いじりをしていたおばあちゃんと話す。大きな家で、「地震で屋根が落ちたので80万かけて直した。千葉に3カ月避難していたが6月ころに戻った。



赤石沢遺跡入口にあるモニタリングポスト $1.413\mu\text{ Sv/h}$ 。我われの線量計は $2.71\mu\text{ Sv/h}$ を示す。



昨年は通れた展望広場への道が、「帰還困難区域」に再編制されて、200m手前で通行止めに。 $7.44\mu\text{ Sv/h}$ 。昨年の展望広場は $8.88\mu\text{ Sv/h}$ 。



赤石沢遺跡入口付近の民家に一人縁側に腰かけていた人がいた。犬が一匹、人懐っこく寄ってきた。

郡山に息子がいるがそっちに行っても線量はほとんど変わらんと笑ったんだよ。年寄りはこちらに帰ってずっと住んでいるよ。去年近所の家で野菜を作ってみて大丈夫だったから今年はうちもジャガイモでも作ってみる。マスクは去年はしてたが今年はもうしない」。裏山も持っていて、竹林は切ってあった。「他の木も除染してほしいんだけど、〇〇ちゃんのところは広いからあとで（年度が変わってから？）って言われちゃったんで早くと言ってるんだよ」と。子どもや孫は来ない、不安の中で暮らしていると、元気ないいわゆる田舎の明るいおばあちゃんは豪快に話してくれた。この線量は $0.7 \mu\text{Sv/h}$ 。狛江の 10 倍だ。でも、飯坂なども同じくらいあり、そこで人が暮らしている。 $0.23 \mu\text{Sv/h}$ が政府の除染基準だ。我々が歩いているとジャージを着た中学生くらいの一団がチャリで通り「こんにちは〜！」と元気に挨拶してくる。もちろんマスクはしていない。辛い気持ちになる。さすがに幼児や小学生は見かけなかったが「若者」はフツーに「居る」。あちこちで見たこの光景がこの旅で一番胸に刺さった。これでいいの？！いいはずがない！！

一年ぶりに訪れるにあたって、「どのくらい線量が下がっているのだろう？」と期待も少しはあったのだが、来てみるとほとんどが去年と変わっていないか、むしろ高くなっていた。それも山村部だけではない。人口が多く、人々が「普通に」生活しているところでも政府が除染基準にしている $0.23 \mu\text{Sv/h}$ を優に超えていた。その中には除染が済んでいるところもあるのだ。高いお金をかけてやる「除染」とは何なのだろう？先日、東京で出会った福島の実母が言っていた「除染をやるお金で子どもたちを避難させてほしい」との言葉が耳に残る。

今回訪れはしなかったが、とってもきれいに片付いているところが二か所あるそうだ。野田元首相が訪問したところと、安倍首相が「視察」に行ったところだ。昔、天皇が訪れたところと同じなのですね・・・。



葛尾村役場と公民館。いまは災害対策本部として使われている。



葛尾村のモニタリングポスト、 $0.280 \mu\text{Sv/h}$ 。我々の線量計は $0.492 \mu\text{Sv/h}$ を示している。



葛尾村から田村市に入る掛札峠。除染は 3 月 29 日に終了の計画。しかし、線量は $1.28 \mu\text{Sv/h}$ で、去年の $1.16 \mu\text{Sv/h}$ より高くなっていた。



288 号線との交差点の民家。昨年から戻り、生活している。

狛江の放射能を測る会 連絡責任者 西尾真人 3480-7477

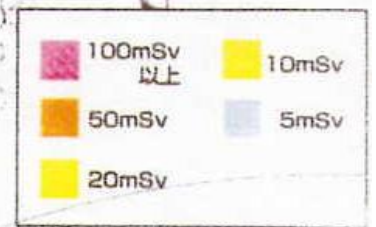
福島県国道 399 号線に沿った放射能汚染地図

測定 2013 年 4 月 2 日～4 日（括弧内前年同日測定） 狛江の放射能を測る会

6月9日
訂正版

1年間の推定積算線量

単位はシーベルト。
平成24年3月11日までの
およそ1年間の推定積算線量。
（測定開始日は地域により異なる）
文科省資料より複製。



福島県 浜・中通り
原発80km圏内図

新聞、ネット等に公表された放射線量地図等を
拡大して本図の下に載せてご使用下さい。

伊達市 (399 x 349) = 0.717(0.585)

伊達市 (399 x 315) = 0.834(0.862)

伊達市-飯館村境 = 1.149(1.395)

飯館村二枚橋= 1.627(1.390)

飯館村白石小学校近く= 3.024(1.730)

ひもろぎの里の碑= 1.950(2.100)

飯館村峠の展望台手前=7.441

飯館村峠の展望台= (8.876)

飯館村-浪江町境=(8.678)

399 号線 津島へ行く途中= (9.820)

浪江町に入って1 k m=(10μSv/h 以上)

浪江町・葛尾村境=1.102(1.216)

葛尾村役場前= 0.484(0.994)

葛尾村掛札峠=1.277(1.162(雪))

399 X 288 合流地点= 0.682(0.604)

川内村役場前=(0.119)

399 X 36 交差点=(0.305)

川内村(手古岡トンネル前) = (0.559)

川内村入口手前 =(0.864)

飯坂温泉= 0.203(0.255)

保原=0.245(0.248)

霊山= 0.793(0.547)

パーシモン CC 手前=1.050 (0.746)

飯館村飯桶小近く= (3.335)

赤石沢入口=2.706

夜の森桜並木 =4.422(5cm)

同民家排水口脇=10.0 以上(5cm)

富岡二中=2.050

富岡駅=0.46～0.83

寶鏡寺 =0.622

広野駅 = (0.291)

J ビイレジ =0.337(0.324)

いわき市小川町上小川内倉 =(0.222)

いわき市小川町上小川横川 =(0.156)

いわき市小川町福岡飯森 =(0.132)

塩屋岬 =(0.486)

小名浜タウンモールリスポ =0.078(0.099)

小名浜港 = (0.047)

単位：μSv/h（1時間当たりの放射線量マイクロシーベルト）

測定器：PA1000(堀場製) 測定高さ：1m

<http://maps.google.co.jp/maps/ms?msid=217824378865472811063.0004bcf203a9b614cef65&msa=0>

（より鮮明な地図を見ることができます。）